

令和6年クリーニング師試験問題

【令和6年9月22日：岩手県】

《衛生法規に関する知識》

問1 次の文は、クリーニング業法、クリーニング業法施行令及びクリーニング業法施行規則（以下「クリーニング業法等」という。）について述べたものであるが、【 】の中に当てはまる適切な語句を下の語群の中から選び、その記号を指定する解答欄に記入しなさい。

（5問×5点＝25点）

- （1） クリーニング業法は、クリーニング業に対して、公衆衛生等の見地から必要な指導及び取締りを行い、もってその経営を公共の福祉に適合させるとともに、【解答欄(1)】の利益の擁護を図ることを目的とする。
- （2） この法律で「クリーニング業」とは、溶剤又は洗剤を使用して、衣類その他の繊維製品又は皮革製品を【解答欄(2)】洗たくすること（繊維製品を使用させるために貸与し、その使用済み後はこれを回収して洗たくし、さらにこれを貸与することを繰り返して行なうことを含む。）を営業とすることをいう。
- （3） クリーニング所の業務に従事するクリーニング師は、施行規則第十条の二第一項の研修を受けた後は、【解答欄(3)】を超えない期間ごとに研修を受けるものとする。
- （4） 都道府県知事は、営業者が法第十条の二の規定による命令に従わないときは、【解答欄(4)】その営業の停止又はクリーニング所の閉鎖若しくは業務用の車両のその営業のための使用の停止を命ずることができる。
- （5） 都道府県知事は、クリーニング師がクリーニング業に関し犯罪を犯して【解答欄(5)】以上の刑に処せられたときは、その免許を取り消すことができる。

[語群]

- ① 営業者 ② 罰金 ③ 解体して ④ 期間を定めて ⑤ 三年 ⑥ 禁固
⑦ 原形のまま ⑧ 五年 ⑨ 利用者 ⑩ 無期限に

問2 次の文は、クリーニング業法等に規定する「営業者の衛生措置等」及び「利用者に対する説明義務等」について述べたものであるが、正しいものには○印を、誤っているものには×印を指定する解答欄に記入しなさい。

（5問×5点＝25点）

- （1） 洗濯物を洗濯又は仕上げを終わったものと終わらないものに区分しておくこと。
【解答欄(6)】
- （2） 営業者は、洗たく物の洗たくをするクリーニング所に、業務用の機械として、洗たく機及び脱水機をそれぞれ少くとも一台備えなければならない。なお、脱水機の効用をも有する洗たく機を備える場合でも、脱水機は備えなくてはならない。
【解答欄(7)】
- （3） クリーニング業法施行規則第一条一項で消毒を要する洗たく物には、手ぬぐい・タオルは含まれない。
【解答欄(8)】

- (4) 伝染性の疾病の病原体による汚染のおそれのあるものとして厚生労働省令で指定する洗濯物を取り扱う場合においては、その洗濯物は他の洗濯物と区分しておき、これを洗濯するときは、その前に消毒すること。ただし、洗濯が消毒の効果を有する方法によってなされる場合においては、消毒しなくてもよい。【解答欄(9)】
- (5) クリーニング所においては、苦情の申出先となるクリーニング所の名称、所在地及び電話番号を店頭に掲示するか、若しくは、洗たく物の受取及び引渡しをしようとする際に、当該事項を記載した書面を配布しなければならない。【解答欄(10)】

問3 次の文は、クリーニング業法等に規定するクリーニング師に関することについて述べたものであるが、() 内のうち正しいものを選び、その記号を指定する解答欄に記入しなさい。

(4問×5点＝20点)

- (1) 法第六条に規定するクリーニング師の免許を受けようとする者は、本籍、住所、氏名及び生年月日を書いた申請書に次の書類を添えて、【解答欄(11)】(①厚生労働大臣 ②クリーニング師試験合格地の都道府県知事)(法第七条の二第一項に規定する指定試験機関の行つたクリーニング師試験を受けた者にあつては、当該試験事務を当該指定試験機関に行わせることとした都道府県知事)に申請しなければならない。
- 一 戸籍謄本、戸籍抄本又は本籍の記載のある住民票の写し(クリーニング師試験の申請時から氏名又は本籍に変更があつた者については、戸籍謄本又は戸籍抄本)
- 二 業務を行おうとする場所を記載した書類
- (2) クリーニング師が死亡し、又は失そうの宣告を受けたときは、戸籍法(昭和二十二年法律第二百二十四号)に規定する届出義務者は、【解答欄(12)】(①一月 ②半年)以内に免許証を免許を与えた都道府県知事に返納しなければならない。
- (3) クリーニング師は、その本籍又は氏名を変更したときは、【解答欄(13)】(①十日 ②一月)以内に、免許証の訂正の申請を免許を与えた都道府県知事にしなければならない。
- (4) クリーニング所の業務に従事するクリーニング師は、【解答欄(14)】(①免許取得後 ②業務に従事した後)一年以内に法第八条の二の規定による研修を受けるものとする。

問4 次の文は、クリーニング業法等に規定する営業者及びクリーニング所に関することについて述べたものであるが、正しいものには○印を、誤っているものには×印を指定する解答欄に記入しなさい。

(4問×5点＝20点)

- (1) 営業者は、クリーニング所(洗たく物の受取及び引渡のみを行うものを除く。)ごとに、一人以上のクリーニング師を置かなければならない。ただし、営業者がクリーニング師であつて、自ら、主として一のクリーニング所においてその業務に従事するときは、当該クリーニング所については、この限りでない。【解答欄(15)】
- (2) クリーニング所の開設の際に届け出た事項について変更が生じたときは、営業者は、厚生労働省令の定めるところにより、速やかに都道府県知事に届け出なければならない。ただし、クリーニング所もしくはクリーニング所を開設しないで洗濯物の受取及び引渡をすることを営業としようとするものが廃止をしたときは届出は必要ない。【解答欄(16)】
- (3) 都道府県知事は、営業者又はその使用人で、洗濯物の処理又は受取及び引渡しの業務に従事するものが伝染性の疾病にかかり、その就業が公衆衛生上不相当と認めるときは、期間を定め

てその業務を停止することができる。

【解答欄(17)】

- (4) 都道府県知事は、必要があると認めるときは、当該職員に、クリーニング所又は業務用の車両に立ち入り、営業者の衛生措置等、苦情の申し出先の明示、クリーニング師の設置の措置の実施状況を検査させることができる。

【解答欄(18)】

問5 次の文は、クリーニング業に関する法律について述べたものであるが、()内のうち正しいものを選び、その記号を指定する解答欄に記入しなさい。(2問×5点=10点)

- (1) 水質汚濁防止法：クリーニング所においては、洗濯業の用に供する洗浄施設が【解答欄(19)】(①特定施設 ②指定施設)に該当する。
- (2) 建築基準法：引火性溶剤を用いるドライクリーニングを営む工業について、居住系地域や商業系地域における建築を【解答欄(20)】(①許可している ②禁止している)。

《公衆衛生に関する知識》

問6 次の文は、クリーニング所における衛生管理要領における「引火性溶剤の取扱い」について述べたものであるが、【 】の中に当てはまる適切な語句を下の語群の中から選び、その記号を指定する解答欄に記入しなさい。(3問×5点=15点)

- (1) できるだけ引火点が【解答欄(21)】溶剤を選択すること。
- (2) 静電気を抑えるため、洗濯の頻度及び洗剤の濃度測定に応じ、【解答欄(22)】を投入すること。
- (3) 保管容器は【解答欄(23)】すること。

[語群]

① 高い ② 解放 ③ 低い ④ 水 ⑤ 密閉 ⑥ 洗剤

問7 次の文は、クリーニング所における衛生管理要領における管理及び消毒について述べたものであるが、正しいものには○印を、誤っているものには×印を指定する解答欄に記入しなさい。(10問×5点=50点)

- (1) クリーニング師は、利用者利益の擁護を図るため、クリーニング事故の発生防止に努めるとともに、万が一事故が生じた際の対応責任者として原因究明を行い、利用者が不当に不利益を被る事態となることがないように努めること。【解答欄(24)】
- (2) 施設内、特に引火性溶剤の保管場所、作業所は、換気を十分にすること。特に、ドライクリーニング処理を行うクリーニング所については、大気汚染防止法等に留意し、環境汚染防止に努め、気化した有機溶剤の排気又は回収に配慮すること。【解答欄(25)】
- (3) 仕上げの終わった洗濯物については、処理が適正に行われたかどうか確認を行うこと。特に、おしぼり、おむつ等の指定洗濯物については、適宜細菌検査等を行い、消毒及び処理の結果を確認すること。【解答欄(26)】
- (4) 有機溶剤の清浄化のために使用したフィルター等を廃棄する場合は、一般のごみと同様に廃棄すること。【解答欄(27)】

- (5) 営業者は、従業者又はその同居者が感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成 10 年法律第 114 号)により就業が制限される感染症にかかっている者は従事させてはならないが、その疑いのある者である場合はその限りでない。【解答欄(28)】
- (6) 受け取った洗濯物については、指定洗濯物を別に区分して取り扱う必要はない。【解答欄(29)】
- (7) ドライクリーニング用の洗濯機等は、有機溶剤の漏出がないよう常に点検し、使用中もその漏出の有無について十分留意すること。【解答欄(30)】
- (8) 洗濯物のしみ抜き作業を行う場合は、繊維の種類、しみの種類・程度等に応じた適当な薬剤を選定し、しみ抜き場等所定の場所で行うこと。【解答欄(31)】
- (9) 施設内は、一週間に 1 回清掃し、その清潔保持に努め、必要に応じ補修を行い、衛生上支障のないようにすること。【解答欄(32)】
- (10) ランドリー処理用の洗濯機及び脱水機は、槽内及び投入取出口等をアルコール又は界面活性剤等の水溶液を満たして稼動するか、又はこれら消毒液を用いて清拭(くしき)することにより消毒することが望ましいこと。【解答欄(33)】

問 8 次の文は、クリーニング所における衛生管理要領に規定する「施設及び設備等」及び「管理」について述べたものであるが、() 内のうち正しいものを選び、その記号を指定する解答欄に記入しなさい。(7 問×5 点＝35 点)

- (1) 洗濯場の床及び腰張りは、コンクリート、タイル等の【解答欄(34)】(①透性材料 ②不浸透性材料)を使用し、清掃が容易に行える構造であること。
- (2) 照明器具は、少なくとも【解答欄(35)】(①1 年に 2 回 ②2 年に 1 回)以上清掃するとともに、常に適正な照度維持に努めること。
- (3) 特に営業者(管理人を含む。以下同じ。)又はクリーニング師は、【解答欄(36)】(①毎日 ②毎月)クリーニング所の施設、設備及び器具の衛生全般について点検管理すること。
- (4) ランドリー処理のすすぎには、清浄な水を使用して少なくとも【解答欄(37)】(①2 回 ②3 回)以上行うこと。また、この場合、工程中に強制脱水を行うことが望ましいこと。
- (5) 蒸気がま等を使用し、100℃以上の湿熱に【解答欄(38)】(①5 分 ②10 分)間以上触れさせること(温度計により器内の温度を確認すること。)
- (6) 洗濯機、脱水機等の機械、作業台、運搬・集配容器等の洗濯物が接触する部分(仕上げの終わった洗濯物の格納設備又は容器を除く。)は、毎日業務終了後に洗浄又は清掃し、仕上げの終わった洗濯物の格納設備又は容器は、少なくとも【解答欄(39)】(①1 週間に 1 回 ②1 か月に 1 回)以上清掃を行い、常に清潔に保つこと。
- (7) 使用中又は使用後の有機溶剤は、溶剤中に分散された汚れを除去するため常に清浄化を行うこと。この場合、ろ過又は吸着により有機溶剤の清浄化を行っても清浄にならないものは、【解答欄(40)】(①攪拌 ②蒸留)するか又は新しい溶剤に交換すること。

《洗たく物の処理に関する知識》

問 9 次の文は、繊維について述べたものである。【 】の中に当てはまる正しい語句を下の語群の中から選び、その記号を指定する解答欄に記入しなさい。(20問×2点＝40点)

- (1) 人類がもっとも古くから利用している繊維と言われる麻は、植物の茎や葉からとれる天然繊維で、主成分は【解答欄(41)】である。同じ植物繊維で種子毛を利用した【解答欄(42)】に比べて強度が【解答欄(43)】く、伸度は【解答欄(44)】いことが特徴である。
- (2) 天然繊維の毛は、様々な動物の体毛を利用した獣毛繊維の総称で、最も多く生産されているのは【解答欄(45)】である。毛の表面構造は、【解答欄(46)】と呼ばれるうろこ状の表皮でおおわれており、これが水をはじいて【解答欄(47)】性を高めている。その一方で、毛の主成分は【解答欄(48)】と呼ばれるタンパク質であることから、【解答欄(49)】性は高く綿より優れている。
- (3) 化学繊維の歴史は1800年代後半からはじまる。【解答欄(50)】を主な原材料とするレーヨン、【解答欄(51)】を主な原材料とするキュプラなどが登場し、これらは【解答欄(52)】繊維に分類される。いずれも天然繊維である【解答欄(53)】を目標にして作られたため、レーヨンは別名【解答欄(54)】と呼ばれた。
- (4) 化学繊維の中でも特に【解答欄(55)】を原料として作られた繊維は合成繊維に分類され、1935年に発明された【解答欄(56)】が最初である。一方、現在合成繊維で最も多く生産されているのは【解答欄(57)】で、これは天然繊維を含む全繊維で比較しても第1位である。合成繊維に共通する特徴としては、アイロン温度に関係する【解答欄(58)】性が低い一方、【解答欄(59)】性は比較的高く酸やアルカリに強いことがあげられる。また、特徴的な性質を持つ合成繊維として、伸張回復力が極めて高い【解答欄(60)】があり、ゴムの代替品として利用されている。

[語群]

- ① コットンリントー ② キューティクル ③ 再生 ④ はっ水
⑤ 絹 ⑥ 高 ⑦ ポリウレタン ⑧ 吸水 ⑨ 綿 ⑩ 耐薬品
⑪ ナイロン ⑫ 耐紫外線 ⑬ 半合成 ⑭ 人造絹糸 ⑮ 羊毛
⑯ カシミア ⑰ セルロース ⑱ 吸湿 ⑲ 木材パルプ ⑳ ケラチン
㉑ アクリル ㉒ 低 ㉓ ポリエステル ㉔ 耐熱 ㉕ 原油

問 10 次に示す文章は、湿式洗濯(ウェットクリーニング)と乾式洗濯(ドライクリーニング)に関する記述である。それぞれ主としてどちらの洗濯方式に関して述べているかを判断し、その記号を指定する解答欄に記入しなさい。なお、それぞれの解答欄に該当する解答の合計数が示されているので参考にすること。(15問×2点＝30点)

- ① 洗浄液は主に水、または湯である。
- ② 洗浄液は主に石油系や塩素系の有機溶剤である。
- ③ 一般家庭では通常この洗濯は行わない。

- ④ 硬度成分の影響を受けやすく、そのため洗浄性の低下が起こりやすい。
- ⑤ 油汚れの除去はどちらかというと不得意（除去しにくい）である。
- ⑥ 毛製品の縮絨（ちぢみ）が起こりにくく、型崩れや風合い変化は比較的少ない。
- ⑦ 商業洗濯で行われるランドリーは、こちらの洗濯方式に近い。
- ⑧ 自然環境や人体に対しては、比較的安全だと考えてよい。
- ⑨ 水溶性汚れ（汗など）の除去はどちらかというと不得意（除去しにくい）である。
- ⑩ 本洗い後の洗浄液はそのまま排水せず、蒸留して繰り返し何度も本洗いに使用する。
- ⑪ 地球環境への影響として、地下水汚染、大気汚染、オゾン層の破壊などが指摘されている。
- ⑫ 乾燥が早く、仕上げが比較的容易である。
- ⑬ 多くの場合、洗浄工程の「本洗い」と「乾燥」のあいだに「すすぎ工程」が入る。
- ⑭ ホテルやレストランを対象にしたリネンサプライ業が行っているのはどちらかというとこちらの洗濯方式である。
- ⑮ この洗濯方式は、衣服のなかでもインナー（下着）より主にアウター（外着）に対して行われる。

洗濯方式	【解答欄】（番号を記入）
主に「湿式洗濯（ウェットクリーニング）」に関する記述	（7つ） 【解答欄 (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67)】
主に「乾式洗濯（ドライクリーニング）」に関する記述	（8つ） 【解答欄 (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75)】

問 11 次の文章を読み、書かれている内容がすべて正しいものには○を、1か所でも誤っているものには×を、指定する解答欄に記入しなさい。（5問×4点＝20点）

- （1） 洗濯では十分に除去できなかった汚れに対しては、漂白を行うことがある。各種漂白剤のうち酸化型の塩素系漂白剤は、白物衣料にのみ使用でき、色柄物は脱色の恐れがあるため適さない。【解答欄(76)】
- （2） 衣服のタグなどにつけられている新 JIS 取り扱い表示（2016 年 12 月 1 日施行）に関して、その適用範囲（責任の及ぶ範囲）は、家庭洗濯のみであり、商業クリーニングの取り扱いは責任表示の範囲外である。【解答欄(77)】
- （3） 繊維製品の仕上げ加工のひとつである「マーセル化（マーセライズ）加工」とは、布に張力をかけながら高アルカリ液で処理することにより繊維表面を平滑化することで、布の光沢や強度、染色性が向上する。シルケット加工ともよばれる。【解答欄 (78)】

- (4) 生成り製品とは、漂白や蛍光増白処理がされていない製品のことで、繊維の自然な色調を生かして仕上げたものである。取り扱い時には、漂白剤や蛍光増白剤は生地が白色化するので基本的に使用できないが、その分高温洗濯をして汚れを十分に除去することが望ましい。

【解答欄(79)】

- (5) 帯電防止加工（制電加工）は、繊維上の静電気を抑制する加工である。処理方法によって効果が一時的なものと恒久的なものがあるが、界面活性剤を主成分とした帯電防止剤を用いる方法は、ほぼ恒久的にその効果を持続できる。

【解答欄(80)】

問 12 次の問題の答えを下の数字群の中から選び、その記号を指定する解答欄に記入しなさい。

(2 問 × 5 点 = 10 点)

- (1) 洗濯乾燥機を用い、洗濯液量を 200 リットルとしてワイシャツを洗濯したいと思います。洗剤原液濃度 10%の業務用洗剤を用い、濃度を 0.2%に希釈して洗濯を行う場合、業務用洗剤は何リットル必要ですか。

【解答欄(81)】 リットル

- (2) 漂泊のために、0.02%の次亜塩素酸ナトリウム水溶液を 5 リットル調製したいと思います。市販の次亜塩素酸ナトリウム水溶液の濃度は 5.0%です。市販の次亜塩素酸ナトリウムは何リットル必要ですか。

【解答欄(82)】 リットル

[数字群]

① 0.02 ② 0.04 ③ 0.2 ④ 0.4 ⑤ 2 ⑥ 4